

主論文の要旨

Risk factors associated with Barrett's epithelial dysplasia
(バレット上皮の異型化に関する危険因子の検討)

東京女子医科大学消化器内科学教室
(主任：立元敬子教授)

藤田 美貴子

World Journal of Gastroenterology 第20巻 第15号 4353頁～4361頁
(平成26年4月21日発行)に掲載

【要 旨】

バレット食道は腺癌の発生母地と考えられ、特に特殊円柱上皮 (specialized columnar epithelium:SCE)が重要とされている。特殊円柱上皮は腸上皮化生と同等とされており、腺癌の発生に関与していると推測されている。今回、バレット食道における細胞異型、およびその危険因子との関連性について検討した。151例のバレット食道患者を対象とし、このうち65例のSCE typeについて異型腺管発現における危険因子について単変量および多変量解析を行った。検討項目は、身体学的検査、血液生化学検査、p53染色、逆流性食道炎、*H. pylori*感染について評価した。結果は、バレット食道のうちSCE typeは56.5%(65/115)で、異型腺管の発現率は30.8%(20/65)であった。このSCE typeにおける異型腺管出現の危険因子を単変量解析すると、*H. pylori*非感染、過体重、p53蛋白強発現、低拡張期血圧で有意差を認めた。これらを多変量解析すると、p53蛋白強発現、*H. pylori*非感染、低拡張期血圧が独立した危険因子であった。